

3-3. ながいも（ヤマイモ）

（1）市場実態

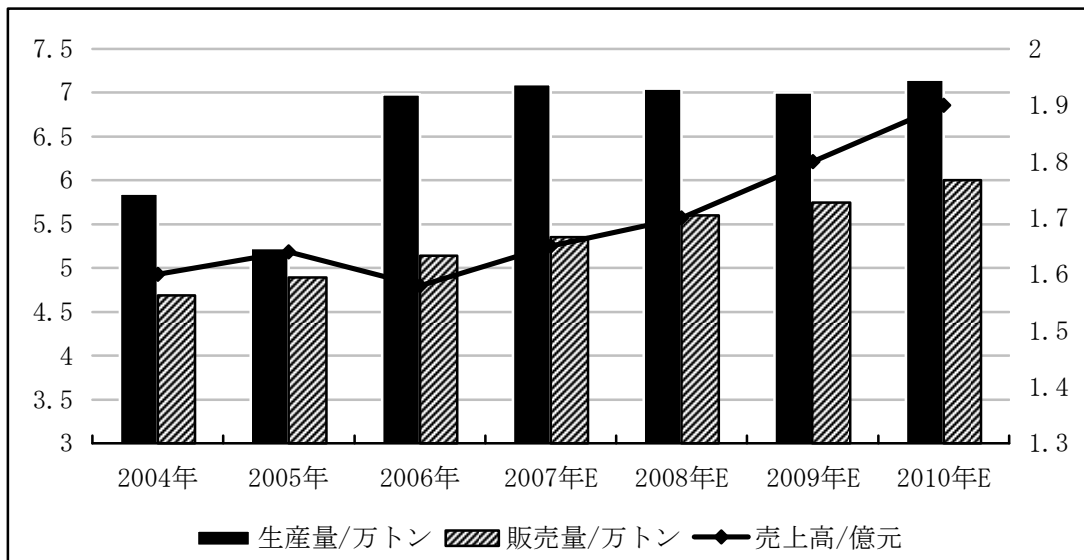
①生産量及び販売量と金額の動向

ヤマイモは、中国の伝統的な作物である。2006年の生産量は約7万トンであった。2004年、2005年と気候に恵まれず、生産量が少なめであったため、価格が上昇し、2006年の生産が促進されたという側面がある。例えば、広西省の生産量は前年比70～75%と急増している。業界関係者は、今後、生産量は大幅な増減がなく推移するものとみている。

2006年の販売量は5.14万トンである。この販売量には輸出入が含まれるが、輸出は857トンであり、輸出比率は1.7%である。輸入量は41トンとさらに少ない。今後の販売量の伸びも緩やかで、2010年の販売量は6万トンが見込まれている。

図表Ⅱ-3-15 ヤマイモの生産量、販売量、売上高
(2004年-2006年実績及び2007-2010年予測)

| | 生産量/万トン | 販売量 ^注 /万トン | 売上高/億元 |
|---------|---------|-----------------------|--------|
| 2004年 | 5.85 | 4.69 | 1.60 |
| 2005年 | 5.23 | 4.89 | 1.84 |
| 2006年 | 6.98 | 5.14 | 1.58 |
| 2007年予測 | 7.10 | 5.35 | 1.65 |
| 2008年予測 | 7.05 | 5.60 | 1.70 |
| 2009年予測 | 7.00 | 5.75 | 1.80 |
| 2010年予測 | 7.15 | 6.00 | 1.90 |



(資料) 各省の発表データ、業界関係者へのヒアリング

(注) この販売量には輸入と輸出量を含む。

ヤマイモ産地の分布は広く、北は河北、山東、南は広西、広東まで広がっている。生産量は広東、広西が多く、2省の生産量は全国の総生産量の50%を占めている。山東、河北、浙江、湖南、四川、雲南、貴州、広西等でも栽培されており、福建、湖南、四川、陝西等の10数省においても、自給して余りある状態である。

中国で栽培しているヤマイモは普通のヤマイモ（家ヤマイモ）と和田イモの2種類である。

図表Ⅱ-3-16 中国内におけるヤマイモの主な産地及び各産地の生産量の比率

| 主な産地 | 06年生産量/万トン | 生産量比率 |
|------|------------|-------|
| 広西 | 1.82 | 26.1% |
| 広東 | 1.58 | 22.6% |
| 河南 | 1.27 | 18.2% |
| 山東 | 0.92 | 13.2% |
| 福建 | 0.43 | 6.3% |
| 四川 | 0.25 | 3.5% |
| その他 | 0.71 | 10.1% |
| 合計 | 6.98 | 100% |

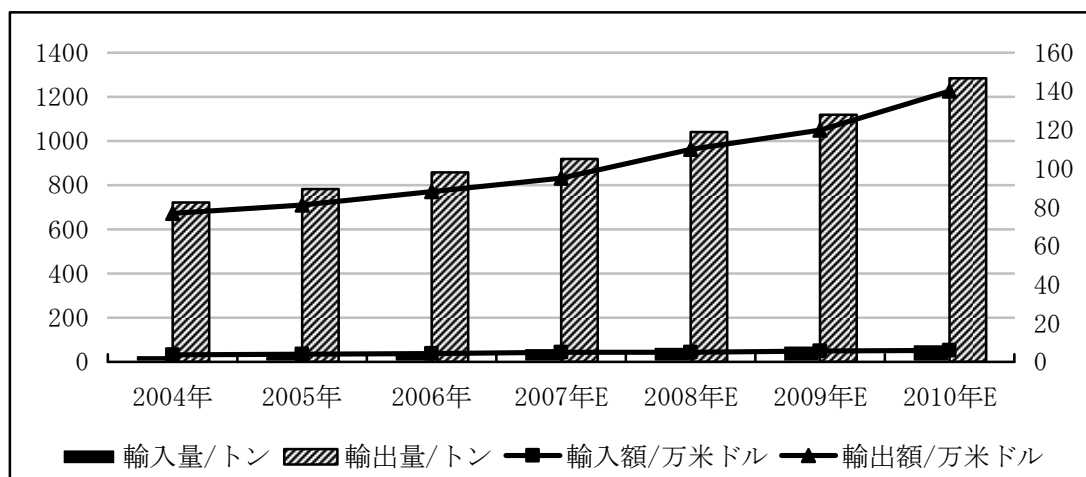
(資料) 『中国農業統計年鑑』

②輸出入量の動向

中国の関税には「ヤマイモ」単独の関税番号はない。輸入関税を課税される場合には、HSコード07149090「生鮮、冷凍、乾燥ラン科の植物の塊茎」が適用されているが、内容的には、そのうちの程度がヤマイモに相当するかは見当がつかない。このためヤマイモの輸出入データは存在しておらず、以下では業界関係者の推測を紹介する。

図表Ⅱ－３－１７ ヤマイモの輸入・輸出品
(2004年-2006年実績及び2007-2010年予測)

| | 輸入量/トン | 輸入額/万米ドル | 輸出量/トン | 輸出額/万米ドル |
|---------|--------|----------|--------|----------|
| 2004年 | 32 | 3.6 | 721 | 76.8 |
| 2005年 | 47 | 4.1 | 784 | 81.2 |
| 2006年 | 41 | 4.3 | 857 | 88.1 |
| 2007年予測 | 65 | 5.0 | 920 | 95 |
| 2008年予測 | 70 | 5.0 | 1,040 | 110 |
| 2009年予測 | 75 | 5.5 | 1,120 | 120 |
| 2010年予測 | 80 | 6.0 | 1,285 | 140 |



(資料) 業界関係者へのヒアリング

ヤマイモは、主に、日本、東南アジアの国々へ、生鮮のまま輸出されている。江蘇沛県の水ヤマイモ、山東済南の長ヤマイモが主である。2006年の輸出量は857トンであるが、その約8割が日本向けであった。

図表Ⅱ－３－１８ ヤマイモの相手国別輸出（2006年）

| 主な輸出先 | 輸出量/トン | 輸出額/万米ドル | 輸出量比率 |
|--------|--------|----------|-------|
| 日本 | 654 | 68.1 | 81.9% |
| マレーシア | 59 | 6.1 | 6.4% |
| アメリカ | 32 | 4.8 | 3.8% |
| ベトナム | 24 | 2.1 | 2.7% |
| 香港 | 17 | 1.6 | 1.7% |
| カナダ | 11 | 1.5 | 1.0% |
| 韓国 | 9 | 1.1 | 0.8% |
| シンガポール | 8 | 1.3 | 0.5% |
| インドネシア | 8 | 0.7 | 0.3% |
| その他 | 35 | 0.8 | 0.9% |
| 合計 | 857 | 88.1 | 100% |

（資料）業界関係者へのヒアリング

中国におけるヤマイモの輸入量は 41 トンと少なく、主として、日本¹、韓国、台湾から輸入されていると推測されている。

図表Ⅱ－３－１９ ヤマイモの相手国別輸入（2006年）

| 主な輸入先 | 輸入量/トン | 輸入額/万米ドル | 輸入量比率 |
|-------|--------|----------|-------|
| 日本 | 30.8 | 3.4 | 74.8% |
| 韓国 | 6.7 | 0.5 | 16.3% |
| 台湾 | 3.1 | 0.3 | 7.5% |
| その他国家 | 0.6 | 0.1 | 1.4% |
| 合計 | 41.2 | 4.3 | 100% |

（資料）業界関係者へのヒアリング

③価格の動向

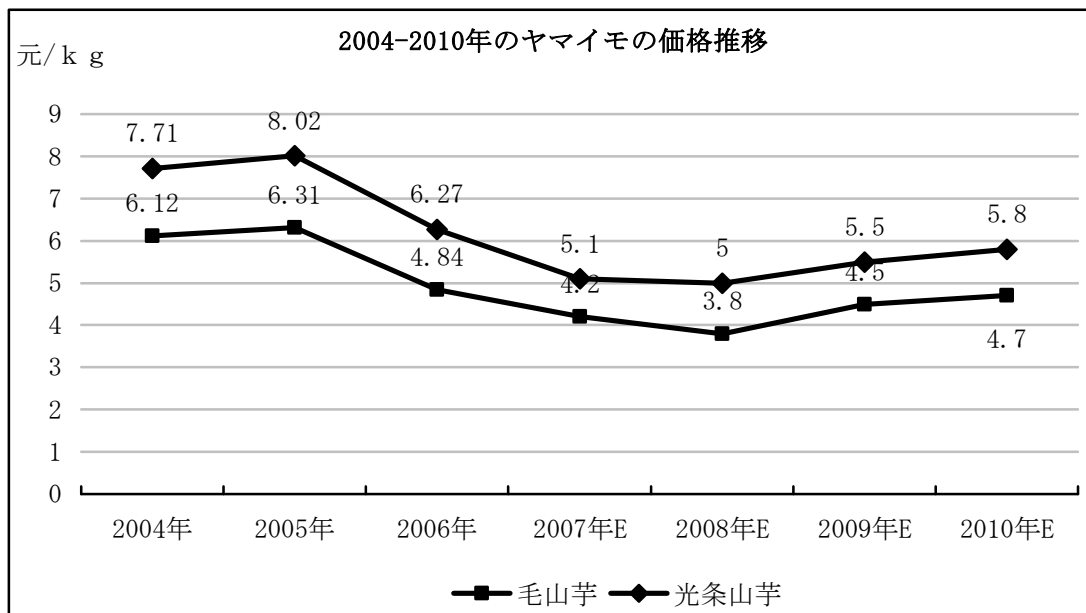
2006年、中国のヤマイモ価格は生産量増加の影響を受けて、大幅に下落した。2007年も前年の在庫が多かったために回復はみられなかった。しかし、2008年以降、価格は復調すると見られる。

店頭における価格は店によって異なるが、大衆向けのスーパーでは 100g で 1 元～1.78 元（約 15～26 円）程度である。外資系スーパーの店頭では 500g で 35 元（約 521 円）の

¹ 原則的に日本から中国へのヤマイモ科作物の輸出は認められていない。台湾あるいは香港を経由したものと推測されるが、確証はない。

ものもあった。

図表Ⅱ-3-20 ヤマイモの価格推移（2004年-2006年実績及び2007-2010年予測）



(資料) 『中国農業年鑑』、『中国農業発展レポート』

④日本製品のイメージ及び潜在需要

国家品質検査総局公布の『植物検疫輸入禁止リスト』に基づき、現在のところ、日本から中国向けのながいもの輸出は禁止されており、販売されていない。

中国人の最終消費者へのインタビューによれば、中国にもヤマモ科の作物がいくつかあるが、ながいものと全く同種のものはない。「やまといも」と良く似た作物があるとのことであった。店頭における表示は「山薬」である。店舗における扱い面積があまり大きくはない点は、日本における扱いと類似している。日本製品に対する関心は、消費者からも、小売業者からも特に聞かれなかった。

⑤消費者の嗜好及びクレーム等

日本産ながいものは、台湾において薬膳料理の材料として人気があり、北海道から安定的に輸出されている。しかし、中国人消費者へのインタビューでは、中国には台湾と同種の薬膳料理がなく、現在、中国で流行っている薬膳の材料はキノコであるとのことであった。ヤマモは家庭料理の材料として使用されており、スープや炒め物として食されている。健康に良い食べ物という認識はなされており、最終消費者からは、特に、中高年女性に好まれるというコメントがあった。

現在、輸入が行われていないため、クレームの例はない。